

県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定等の取扱いについて

県央ブロックにおける新たなごみ処理施設の整備予定地の選定については、平成29年5月に整備候補地4か所を公表し、平成30年8月には、「盛岡インターチェンジ付近」及び「都南工業団地付近」を地域住民や関係者との協議を優先的に実施する候補地とした。

また、平成31年3月25日に開催した県央ブロックごみ・し尿処理広域化推進協議会では、「盛岡インターチェンジ付近」を最も有力な候補地とし、地域との協議を優先して行うこととした。令和2年2月27日の協議会においても、その取扱いを継続することとした。

整備予定地は、各候補地に係る「地域住民や関係者の意見等」、「整備の確実性」及び「整備運営上の諸条件」の選定要素を総合的に判断した上で、選定することとしている。

今般、最も有力な候補地としている「盛岡インターチェンジ付近」について、選定要素に照らした候補地の状況を総合的に判断し、整備予定地としての取扱いを協議するものである。

1 地域住民や関係者の意見等

(1) 土淵地区

平成30年5月に「土淵地区の均衡あるまちづくり」の要望を受けたことを機に、盛岡市主催の懇談会を通じて意見交換を重ねてきており、平成31年2月以降、住民参加の下で他都市の施設見学（4施設）を実施し、令和元年9月には、専門家を招いて「廃棄物エネルギーの利活用とまちづくりに関するシンポジウム」を開催した。

地域内には反対意見もあるが、全般として、廃棄物エネルギーを利活用した地域振興・まちづくりに期待する意見が多く寄せられてきた。

令和3年2月、土淵地区全6町内会等で構成する「土淵地域活動推進協議会」から、「盛岡インターチェンジ付近が整備予定地に決定された場合は、受入れを決定し、まちづくり計画の策定に向けて準備を開始する意向であること」が表明された。

(2) 太田地区

平成31年3月から住民説明会を開催してきたが、参加者の多くから、広域化や施設整備に反対する意見が寄せられた。

(3) 令和2年度における住民説明等の状況

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染防止対策のため、多人数が集まるのが難しい状況であることも勘案し、次の取組により地域住民等への説明を行ってきた。

【令和2年度の取組内容】

時期	取組内容	対象	部数
6月中旬	廃棄物エネルギーの利活用を含む「土淵地区のふれあいと賑わいのあるまちづくり」の現況を説明する資料を配布し、まちづくりの取組に対する理解を深めていただくよう努めた。	土淵地区 (各戸配布)	1,585部

時期	取組内容	対象	部数
7月上旬 ～ 8月下旬	ごみ処理広域化への理解を深めていただくことを目的として、「盛岡市きれいなまち推進懇談会」の参加対象者である市内全域の町内会関係者等に、広域化の取組状況などを説明する資料を配布した。	きれいなまち推進員, 町内会長	814部
8月上旬	広報もりおか(8月1日号)において、ごみ処理広域化の取組状況、全国の特徴的なごみ処理施設の事例等を説明する2ページの特集記事を掲載し、広域化や施設整備について、広くお知らせした。	盛岡市内全域	143,810部
11月中旬 ～下旬	住民説明会等で寄せられてきた意見・質問に対する回答や考え方などを、図表やイラスト、画像等を活用し、分かりやすく説明する内容の「ごみ処理広域化や施設整備に関する冊子」を作成して配布・回覧し、これまで住民説明会等に参加していない住民にも、広域化や施設整備への理解を深めていただくよう取り組んだ。 また、盛岡市以外の市町でも回覧、公共施設への配架等をし、県央ブロック内での住民説明を広く行った。	土淵地区・ 太田地区 (各戸配布)	4,988部
		盛岡市内の その他地区 (各戸回覧)	10,459部
		盛岡市以外 の市町	3,700部

【令和2年11月に配布・回覧した冊子に対して寄せられた主な意見、質問等】

<p>○ 市民から寄せられた意見、質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の総合的な発展に結びつくなら、施設整備に賛成する。 ・ 冊子はこれまでの説明と同じ内容。説明は十分である。早く決めるべき。 ・ 他市町ではごみの分別が異なっており、広域化に向けて分別の統一を住民に指導できるのか。 ・ 市内への施設整備については理解するが、盛岡インターチェンジ付近は渋滞発生の心配がある。 <p>○ ごみ処理広域化に反対する団体からの要請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 盛岡インターチェンジ付近を候補地から除外し、県央ブロックのごみ処理広域化計画を撤回して処理施設の分散立地と各市町での自区内処理を行うべきである。
--

2 整備の確実性

当該地は旧上厨川地区土地区画整理事業跡地であり、地権者からは、ごみ処理施設の整備を含め、土地利用の推進を望む意見が寄せられてきた。

また、「土淵地域活動推進協議会」からは、「施設整備は跡地(約27ha)全体の利活用の中で一体的に検討すべき」との意見が示されてきた。

地権者に対しては、平成29年5月の整備候補地の公表以降、ごみ処理広域化や施設整備に関する情報提供・説明を行ってきた。

3 整備運営上の諸条件

地形が平坦であり大規模な造成を必要とせず、近接箇所に特別高圧送電線が架線されているため、発電に伴う受送電が容易である。

ブロック内に収集運搬中継施設2施設が必要となる。

総費用（ごみ処理施設及び収集運搬中継施設の整備費並びに施設稼働後15年間の施設管理費及び収集運搬経費）については、「約730億円」と試算する。

なお、新たなごみ処理施設については、令和13年度からの稼働が見込まれる。

【参考 整備候補地ごとの総費用試算額】

整備候補地	総費用試算額
盛岡インターチェンジ付近	73,014 百万円
都南工業団地付近	76,517 百万円
盛岡南インターチェンジ付近	74,780 百万円
盛岡市クリーンセンター付近	78,174 百万円

4 選定要素（上記1～3）のまとめ

土淵地区においては、懇談会、視察見学会等を通じて、廃棄物エネルギーを利活用した地域振興、まちづくり等に期待する声が寄せられてきた。

令和3年2月には、「土淵地域活動推進協議会」から「盛岡インターチェンジ付近が整備予定地に決定された場合は、受入れを決定し、まちづくり計画の策定に向けて準備を開始する意向であること」が表明された。

ごみ処理広域化や廃棄物処理施設の整備に対する地域住民等の理解については、これまで住民説明会、懇談会等を通じて地域住民への説明・意見交換を重ねてきたほか、令和2年度は、印刷物の全戸配布等により、これまで住民説明会等に参加していない住民にも、丁寧で分かりやすい説明を幅広く行ってきたことなどにより、理解の浸透が進んできていると考えられる。

その上において、地域には様々な意見があることを踏まえ、事業を進める各段階において、地域への説明・意見交換を繰り返し行っていく必要がある。

また、平成29年5月の整備候補地の公表以降、地権者に対する情報提供・説明を行ってきており、今後も情報提供・説明を継続し、事業への協力を求めていく必要がある。

なお、総費用は、4候補地の中で最も低い試算結果となっている。

(附属資料)

- 別紙1 県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定要素に照らした整備候補地の状況
- 別紙2 県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定に係る地域住民の意見等
- 別紙3 県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定に係る概算事業費（整備候補地別）